

WUOC2012 報告書

文責 細淵 晃平

1. はじめに

正直 3 月の春インカレまではユニバーについて全くといっていいほど知らなかったですし、ましてや自分が出場することになるとは考えたこともありませんでした。インカレ後に自分に出場権が与えられているということを知り、3 年生からはオリエンテーリングだけでなく勉強にも一層力を入れていきたいと考えていた自分としては、出場するかどうかは悩ましい決断でした。しかしユニバーや JWOC の過去の報告書を見て海外でのオリエンテーリングに興味を持ち、せつかく機会があるのに「やらないで後悔だけはしたくない」と思い、出場させていただくことにしました。

2. 準備期間

サークルの新歓期間や OLK 大会の準備であまりトレーニングをできていなかった 4~5 月前半に比べて、5 月後半からは毎週のように合宿に恵まれていました。WOC・JWOC の代表選手の方々と一緒に練習する機会がたくさんあったことも自分にとって良い刺激になったと思います。合宿はあくまでオリエンテーリングの基本を確実にすることが目標だったので、日本とはかなり異なるスペインのトレインでも基本を常に意識してオリエンテーリングをすることができました。また準備期間中には高校時代からよくトレーニングをした公園で壮行会スプリントを開いてもらうなど、自分がいろんな人から応援されていることを実感しました。この頃からユニバーで得られたものを自分だけでなく、他の人にも還元できたらいいなと思うようになりました。

3. 大会結果

◇スプリント 2800m up135m 26 分 25 秒【88 位/100 人中】

1 位 Martin Hubmann (Switzerland) 17 分 53 秒

バルバラ城というアlicant の観光地が会場・スタートで、そこから市街地に降りてきて海岸の近くがゴールというコース。一部は建物と人が一人通れるぐらいの幅の道が入り組んでいて細かいナビゲーションが必要とされる市街地トレインでした。序盤にあった長めのレッグで 1 分後のスイスの Andreas に抜かされて着いていこうとしたのですが、スピードが全然違い追いつけませんでした。しかし沿道の人々から応援してもらえるなど、初めての市街地でのオリエンテーリングはとても楽しいものでした。

翌日のミドルに向けて基本動作を怠ることなく爽やかにレースをしようと考えていたので、順位は意識していませんでした。そもそも自分にとっては初めての世界という舞台でのレースで、自分がどのくらいの順位なのか全く検討が付きませんでした。スプリントが終わって、今の自分はこんなもんなのかという思いだけでした。翌日のミドルではこの順位を

越えることが目標になりました。

◇ミドル 5400m up180m 56分9秒【86位/102人中】

1位 Martin Hubmann (Switzerland) 32分49秒

傾斜の緩やかなラフオープンに一方通行の藪と細かく形がとってある C 藪と一部露岩があり、大きな沢は比較的深く切れ込んでいるというトレインでした。

試合直前のトレーニングエリアで吉田コーチに言われたとおり、緩やかな地形でもちゃんと地形を読み取ることを意識しました。ちゃんと意識して行けたところはスピードを出して走れて、日本のスピードが出ないトレインとのオリエンテーリングのやり方の違いを実感しました。

またトレイン内ではスピードを保ちつつナビゲーションをしている選手たちを間近に見ることができて、技術力の差をひしひしと感じました。そのときオリエンテーリングで速くなるためには単純に走力をつけるだけではなく、技術を磨いて自分の持っているスピードを出せるようになることも必要なのだと気付きました。

◇リレー3走 6300m up190m 58分17秒

ミドルの隣の場所で、緩やかなラフオープンの地形に細かい A 藪と C 藪と深い沢があるというトレインで、コースもスピードが出るものでした。

チームは1走が谷川さん、2走が寺田さんでした。自分は3走だったためほとんど一人旅でしたが、途中で同じ3走の田邊さんに追いつくことができました。しかしビジュアルの前後とフィニッシュ前で大きなミスをしてしまいました。最後になって気が緩んでしまったのと技術力不足によるミスでした。最後だったのに一番悔しくて反省点の多いレースでした。

4. 大会を終えて

今回ユニバーに参加して得られたものは言葉に書き表せないぐらいたくさんあります。この経験を今後の自分に、また他の人を教えるときなどに積極的に活かしていこうと思います。とりあえず今後の課題は、スピードをもっと出せるような技術力をつけることです。

5. 最後に

本大会に参加するにあたり、様々な人にお世話になりました。合宿や現地や手続き等でサポートして下さった方々・壮行会を開いたり声をかけたりしてくれて応援して下さった方々・ブログや Twitter で注目して下さった方々・そして一緒に本大会に参加したメンバー達に、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。